

教授就任に際して

ご挨拶

伊藤哲也

2023年12月に教授に昇任いたしましたことに伴い、ご挨拶させていただきます。私は東京大学数理科学研究科で学位を取得後、海外学振を得て数理解析研究所の助教として最初の職を得ました。その後、大阪大学で過ごしたのち、縁があり6年前の2018年4月に京都大学数学教室へ着任し現在に至ります。こうして振り返ると学位取得後のほとんどを京都大学で過ごしたことになり、京都は第二の故郷といえます。といっても、出不精な性格もあり、大学近辺以外の京都の町をよく知っている、とは言えないのが玉に瑕ですが…。

私の研究の専門は低次元トポロジーです。低次元トポロジーでは、3次元と4次元で大きくその様相は異なり、私は主に3次元の方に興味を持っています。3次元トポロジーは今世紀に入りポアンカレ予想の一般化である幾何化予想の解決に始まり、サーストンが挙げた分野を牽引し続けてきた有名な問題のほぼすべてが解決されるなど、大きく進展し一つの大きな山を越えた印象があります。しかしながら、素朴で自然な問題、例えば「結び目の最小交点数は連結和で加法的にふるまうか？」といったその意味が中高生にも簡単に理解できるような問題の多くはいまだ手つかずで、まだまだ多くの課題と魅力的な問題が残されているように感じます。

自分は元来トリックスター的な性格があるからか、自分の研究はアイデア一発のものや、少し違った分野の道具や結果を活用する変化球的なものが多いですし、論文のページ数が短いものが多いです。一つのテーマを深く掘り下げ考察するといったことは不得手で、悪く言うと思いつきの行き当たりばったりなわけですが、短所と長所は紙一重、こうしたタイプの研究も、多様性の面からみると決して悪くないのではないかな、と思っています。

いうまでもなく、数学教室の学生は優秀で意欲の高い方が多く、セミナーは学生の指導と勉強の場というだけでなく、私にとっては自分の勉強の場となっています。学生とのセミナーで刺激を受けて自分の研究が発展したことも一度や二度ではありません。これまで数学教室に異動して以来、このような素晴らしい環境のなかで、周囲の方々から数多くの恩恵を享受してきました。まだまだ未熟であり、わからない点や到らない点が多々ある自分ではありますが、これまで受けてきた恩恵を数学教室の方々に返せるように、そして数学教室をよりよくできるよう努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。